

○令和5年度青森県伝統工芸士認定者

ながはた えちこ 長畑 恵智子氏 《南部裂織／十和田市》

- ・平成13年に南部裂織保存会に入会し、南部裂織保存会創設者である菅野暎子氏から技術を学ぶ。
- ・南部裂織保存会の裂織教室において、本科、研究科、師範科を修了。従事年数は22年。
- ・多様な技術を取り入れた作品を制作しているほか、草木染めの糸を使用した作品を制作するなど新たな作品作りも積極的に行っている。
- ・裂織教室において、生徒約20名に対して技術の指導を行っている。

なんぶさきおりほぞんかい ○「南部裂織保存会」の概要

- ・団体構成員 約150名
- ・昭和50年7月7日 南部裂織保存会結成。「さき織り教室」開始。
- ・昭和55年から現在まで 各地の公民館等で「さき織り講座」開始
- ・平成8年 南部裂織「青森県伝統工芸品」に指定
- ・平成14年12月16日 「匠工房」落成。「南部裂織の里」教室はた開き
- ・平成26年 十和田市褒賞受賞
- ・令和元年度 青森県文化賞受賞

なんぶさきおり ○「南部裂織」の概要

- ・南部裂織は江戸時代に着古した着物や布を再生する機織りの一技法として生み出された織物である。当時は、寒冷な気候のために綿の栽培は難しく、北前船で運ばれた木綿や古手木綿はとても貴重な存在であった。そのため、厳しい生活を強いられた農村地方の女性たちが布を大切にするための知恵から生まれたものである。細かく裂いた布を横糸に、木綿糸を縦糸にして地機で織った裂織は丈夫で暖かく、そのカラフルな色移りと複雑な機上げが特徴である。
- ・主としてこたつ掛けや帯などに用いられてきたが、現在ではテーブルカバーをはじめ現代感覚の手織物にも応用されている。

【主な製造工程】 整経（せいけい）→ 箆通し（おさとおし）→ 男巻き（おまき）→ 綾越し（あやこし）→ 糸綜統（いとそうこう）→ 元寄せ（もとよせ）→ 機上げ（はたあげ）→ 製織（せいしょく）→ 完成

【主な製品】 卓布・手提げ袋・こたつ掛け